

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 869 julio 2023

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU
Sinhama-tyô 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken, 763-0063,
KOSAKA Kiyoyuki

ENHAVO

ウクライナ戦争、世界の声を集めて	堀 泰雄 1-2
楽しい作文教室 (143)	塚本 猛 3
楽譜：村の鍛冶屋 Forgisto de Vilaĝo 文部省唱歌 / 島谷 剛 4
連載：高齢者の… 2) 高齢者の役員は？	佐野 寛 5
kultura heredaĵo：百人一首 (小式部内侍)	島谷 剛 5
対訳：源氏物語 第54帖 夢浮橋 (1)	紫式部/belmonto 6-7
Kajero Libervola：Ĉina esperantisto vizitis Japanion (1)	TAKEMORI Hirotsi 8
2022 年度 KLEG 活動報告	9-10
2023 年度 KLEG 活動方針、役員	11
La Movado: 広島エスペラント会、香川エスペラント 会、土曜エスペラント会	11
夢十夜 (7)	夏目 漱石 / 沖 恵明 12-13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績	14
Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG事務局だより	15
編集ノート	16

ウクライナ戦争、世界の声を集めて

堀 泰雄 (群馬県)

エスペラントは何の役に立つのだろうか。多くのエスペランチストは、eterna komencantoを自称して、それを恥もしないで恬淡(てんたん)としている。ベテラン・エスペランチストも、多くは、何をしているのかよくわからない。例会に出て、あるいは読書をしたりして楽しんでいるのだろうが、エスペランチストは、果たしてそれで満足して良いのだろうか。「平和のため」と言いながら、実際は何もしていない人が多いのではないだろうか。

エスペラントは使ってこそ意味がある。それも社会的に使ってこそ意味がある。そんなことから、私はもう30年も前から、エスペラント語で「日本からの報告」を書いては、本も出し、エスペラントの雑誌に投稿してきた。日本の政治、憲法九条、また原発事故など、日本人として世界に知ってほしいことを、世界に発信してきた。幸いにして、私には「エスペラント大相撲」(以下「エス相撲」)で入手した外国人のメールアドレスが2000以上ある。これで、世界へと発信することができるのだ。2020年からは、コロナの情報を世界から受け取り、それを世界

に発信してきた。そしてコロナが収束してきたときに起こったのがロシアによるウクライナ侵略である。

戦争開始すぐ、ロシアの4人(だったと思う)のエスペランチストが反対の表明をしたが、それはすぐに、彼らに危険が及ぶと、名前は削除された。それからしばらくして「しんぶん赤旗」に、ロシアで囲碁を教えていた人が、身の危険を感じてトルコに逃げたという話が載り、それを翻訳して、エスペラントの囲碁会報に載せて、世界に発信した。すると、知り合いのロシアの囲碁愛好家から「ここではひどい事が起こっています。戦争を支持しない普通の人々がロシアにまだいることを世界に知らせてください。この愚かな戦争のせいで、ロシアの人々も長く苦しむでしょう。私は他の国の人々がすべてのロシア人を



腹話術人形のケンちゃんと筆者

速報：第95回九州エスペラント大会に39人、第71回関西エスペラント大会(姫路)に166人。詳細は次号で。

憎んだり非難したりしないことを本当に望んでいます。私たちも、(今は)殺されていないだけでも、犠牲者です。希望は他人が奪うことができない私たちの唯一の財産です」という返事が来た。私は、このメールに涙し、この人のためにも、世界の声を集めて、世界を喚起したいと思った。

また、昨年3月の「エス相撲」に、ウクライナのオデーサに住む女性のエスペランチストが「オデーサの空は平和です」と短いメールを添えて参加してくれたことが、驚きでもあり喜びでもあった。この人は、その後ずっと「エス相撲」に参加し、全勝を続けている。こういう私の活動は注目され、戦争が始まってしばらくして、読売新聞群馬版としんぶん赤旗が、私の活動を大きく取り上げてくれた。こうして世界からの声を日本語の翻訳付きで、自分のエスペラント網で流しているうち、2人の定期的な報告者が現れた。1人はチェコのオルガという女性で、ウクライナ政府の公式ページから、あるいはチェコの情報源からニュースを拾い上げて送ってくる。もう一人はロシアの女性で、これは私の友人が仲介してくれている。この女性は、プーチンの政策に反対していて、その観点で、様々な情報を送ってくるので、ロシア国内の微妙な変化をうかがい知ることが出来るが、彼女がつかまりはしないかと、いつも心配である。

この2人が送って来た情報の中で、私が最も心を痛めたのは、ロシアによるウクライナの子どもの「誘拐」である。何千人という子供が占領地からロシアに連れ去られ、その子供たちが、里子に出されているというのである。「7月6日。占領した地域で占領者は、家族から子供を連れ去るのです。すでに30万人以上の子供たちが連れ去られています！」(オルガ)「8月24日。昨日、クラスノダール地方の役人が、彼の地域のロシア人が1000人のウクライナ人の子供を養子にしたと自慢しているというメッセージを見ました。そして、さらに300人が養子にされます」という情報だ。このロシア人女性によると「ロシアでは、子供に対する犯罪が非常に多く、毎年数十万人が犯罪の被害者になっています。毎年約20000人が行方不明になっています。ロシアでは6時間ごとに1人の子供が行方不明になっています」というし、同様なことが、数は少ないにしろ世界中で起こっていることを、いろいろ調べて

知る事になった。日本も例外ではなく、子どもの誘拐、行方不明はしばしばニュースになる。

ロシアのプーチン支持のエスペランチストからも、情報というより「意見」が来た。概して、そういった意見は、口汚い罵りで満ちていて、たとえ親プーチン派にしても(あるいはプーチン派だからか)、「エスペランチスト」ともあろうものが、このような悪罵を投げかけるものなのかと、幻滅を味わわれることもある。最初は、こんな「意見」は拡散したくなくて随分迷ったが、歴史的には、こういう声も記録しておくことも重要だと思って、拡散している。しかし、最近はこういうプーチン支持の声も来なくなったので、それは、この戦争の真実が少しずつ親プーチン派のエスペランチストにも浸透してきたのかな、とも感じている。

開戦から1年5か月がたち、何となく「無関心」「飽き」も感じられる。であればこそ、余計に世界に平和を喚起しなければならないと、私自身も、新聞からの翻訳を載せたり、自分で詩やエッセーを書いたり絵を描いたりしながら世界に送っている。

また、戦争はウクライナにだけあるのではないことも知る。ウクライナと時を同じくして、アフリカのコンゴ民主共和国の一部では、反政府勢力と国軍の戦争がひどくなり、知人のエスペランチストは、避難生活で苦しみを味わっている。レイプや殺されることは日常茶飯だと、書いてくる。私には、そういう報告を、同じように拡散し、エスペランチストの間に、事実を知らせるようにしているが、どっちの国のエスペランチストにも、情報拡散しか出来ないのが、なんとも歯がゆい事である。

エスペランチストは、平和のために「行動してこそ」エスペランチストである意味、意義がある。皆さんそれぞれで出来ることを探してやってほしい。そのためには、eterna komencantoなどと言う自称は封印して、平和のために使える語学力を付けてほしいものだ。

世界の声は、群馬エスペラント会のホームページ(<https://esperanto-gunma.jimdofree.com>)に載せているが、ここ半年はさぼって更新していない。半年分くらいは読めるので、是非訪問してください。



GunmaEsperantoS

La Movado 869



①大会会場はお城へ向かう道の右側にある。

【訳例 1】 La kongresejo troviĝas dekstre de la vojo al la kastelo. (CA)

【訳例 2】 La kongresejo troviĝas en dekstra flanko de la vojo al la kastelo. (Lumo)

【訳例 3】 Marŝu sur la vojo al la kastelo Himezi, kaj vi trovos la kongresejon dekstre de la vojo. (yosie)

「大会会場」は kongresejo (大会会場) です。 「右側」は dekstra (右) を使って表現できます。 訳例 1 は副詞の dekstre、訳例 2 は前置詞 en を使った en dekstra flanko ですがほぼ同等の文です。 「ある」については troviĝi (ある) や esti (~にある) が多かったのですが situi (位置する) を使う例もありました。

訳例 3 は依頼法 -u を使っていて、道を教える時のような表現になっています。 この例では marŝi (行進する) を使っていますが別の例では iri (行く) を使っていました。

②外観がガラス張りの建物がイーグレひめじだ。

【訳例 1】 La konstruaĵo kun vitra ekstero estas Egret Himeji. (CA)

【訳例 2】 La konstruaĵo, kies eksteraĵo estas kovrita de vitroj, estas "Egret Himeji" (Lumo)

【訳例 3】 Ekstere Vitrita domo estas nia kongresejo Egreto Himezi. (yosie)

「外観」は ekstero (外観)、「ガラス」は vitro (ガラス) が使えるでしょう。 glaso (グラス) を使った訳例もありましたが、glaso は飲み物の容器です。 ガラス製ではなく金属製やプラスチック製の場合もあります。

「イーグレひめじ」は複合文化施設の名前です。 姫路城の別名「白鷺城」に由来していて英語では Egret Himeji になっています。 名称ですしエスペラントの Egretardeo にしないでいいでしょう。

訳例 1 は単純に vitra ekstero (ガラスの外観) としていますが、訳例 2 は「外部がガラスで覆われた」と表現しています。 課題 1 の訳例に続き、訳例 3 は「私たちの大会会場」を補っていることもあり

大会参加者と向き合っている感じがします。

③受付に行くにはエスカレーターが便利だ。

【訳例 1】 Rulŝtuparo estas konvena por iri al la akceptejo. (CA)

【訳例 2】 Estas oportune uzi rulŝtuparon por iri al la akceptejo. (Lumo)

【訳例 3】 Por iri al la akceptejo estas oportuna la rulŝtuparo. (Haveno)

「受付」は akceptejo (受付所)、エスカレーターは rulŝtuparo (エスカレーター) が使えます。

訳例 1 は「便利」に konvena (適切な、うってつけの) を使った「受付に行くにはエスカレーターが適している」という表現です。 ここにはエレベーターもあるのですが廊下が 2 方向に向かっているので少し戸惑います。 訳例 2 は次の課題文を意識したのか oportuna (都合のよい) を使い「エスカレーターを使うのが都合がいい」と表現しています。

訳例 3 で por iri から始めるのはいいと思いますが、以前に rulŝtuparo への言及も無いので、la rulŝtuparo を最後に置かない方がいいでしょう。

④エスカレーターで 4 階に着くと受付は正面だ。

【訳例 1】 Kiam vi alvenos en la kvaran etaĝon per rulŝtuparo, vi trovos la akceptejon en via fronto. (Lumo)

【訳例 2】 Kiam vi atingas la 4-an etaĝon per rulŝtuparo, la akceptejo estas antaŭ vi. (Eiko)

【訳例 3】 Per la rulŝtuparo vi supreniru al la 4a etaĝo, kaj vi trovos la akceptejon en la fronto. (yosie)

「4 階」は kvara etaĝo、「正面」は fronto (正面) が使えるでしょう。

訳例 1 と訳例 2 は、原文の前半「着くと」までを kiam (~ときに) を使った文として分け、残りを別の文にしています。 訳例 1 は「着く」に alveni (着く) を使っていますが、訳例 2 は苦勞を伴うのか atingi ion (たどり着く) です。「正面だ」は訳例 1 が en via fronto (あなたの正面)、訳例 2 は antaŭ vi (あなたの前) で表現しています。

訳例 3 は前半を「エスカレーターで 4 階に上がりなさい」と課題 1 の訳例 3 と同じようにしています。「正面だ」の部分が en la fronto なので訳例 1 とは少し異なり 4 階の正面という意味になるでしょう。

成績は P.14、新しい課題は p.15

Forĝisto de Vilaĝo (村の鍛冶屋)

kanto el nacia lernolibro, trad. SIMATANI Takesi



mf F C7 F

1) Sen ri-po-zo fe-ron ba-tas nun for-ĝis-to per mar-tel'

F C7 C7 F

En faj-re-ro ku-ras bo-le gu-toj sur ar-da fer'

C7 F C7

Ne hal-ti-ĝas la blo-vi-lo por vig-li-go de la braĝ'

F C7 F

Ĉi-am di-li-gen-tas la for-ĝis-to de la vi-laĝ'



村の鍛冶屋

文部省唱歌

- 1) 暫時(しばし)も休まず槌うつ響(ひびき)
飛び散る火の花走る湯玉
ふみごの風さえ息をもつがず
仕事に精出す村の鍛冶屋
- 2) あるじは名高きいつこく老爺(おやぢ)
早起き早寝の病(やまひ)知らず
鐵(てつ)より堅(かた)しと誇れる腕に
勝(まさ)りて堅きは彼が心
- 3) 刀はうたねど大鎌(おおがま)小鎌(こがま)
馬鍬(まぐわ)に作鍬(さくぐわ)鋤(すき)よ鉞(なた)よ
平和の打ち物休まずうちて
日毎(ひごと)に戦う懶惰(らんだ)の敵と
- 4) 稼ぐにおひつく貧乏なくて
名物鍛冶屋は日に繁昌(はんじょう)
あたりに類(るい)なき仕事のほまれ
槌(つち)うつ響(ひびき)にまして高し

Festo de Vilaĝo

kanto el nacia lernolibro, trad. SIMATANI Takesi

- 1) Sen ripozo feron batas la forĝisto per martel'
En fajreroj kuras bole gutoj sur arda fer'
Ne haltigas la blovilo por vigligo de la braĝ'
Ĉiam diligentas la forĝisto de la vilaĝ'
- 2) Ne cedemas la oldulo pri laboro de forĝad'
De mateno li laboras kaj dormas sen sonĝad'
Li fieras pri la brakoj pli fortikaj ol la fer'
Pli fortika ol la brakoj estas de li sincer'
- 3) Glavon li ne volas forĝi, sed falĉilon faras li
Jen fosilo, jen sarkilo kaj krome jen hakil'
Li senĉese faras necesajojn de la paca viv'
Ĉiun tagon li laboras arde for de pasiv'
- 4) En la deligentaj tagoj ne turmentis lin mizer'
Ĉiam pli kaj ĉiam fama vivis li en prosper'
Ĉar neniu lin superis en kvalito de feraĵ',
ĉiam laŭte batas la forĝisto de la vilaĝ'

第22回中国・四国エスペラント大会

2023年10月1日(日)9時~17時

岡山国際交流会館

第110回日本エスペラント大会

2023年10月21日(土)22日(日)

川崎市総合自治会館ほか

連載：高齢者の…

2) 高齢者の役員は？

佐野 寛 (大阪府)

国民総高齢化を反映して、公民館登録・文化団体の老化進行もいちじるしい(エスペラント会も)。その会合できまってしまう愚痴は、役員の成り手が不足なことです。会の構成員の高齢化は現実なので、会の役員の高齢化も当然として覚悟しなければなるまい。とはいえ高齢化では生理的に目は霞み・耳も遠くなり・記憶力も落ちてくるのは避けられない。相応の「対策技術」は必要になります。

視聴覚のアシスト(支援)に老眼鏡や補聴器、記憶力のアシストにIT補助機器、などは第3～4回に詳述します。ここでは役員問題だけに話題を限定します。

<役員定年の相場はあるか？>

約40年前に、豊中エスペラント会の会員Iさんは「僕は50歳で役員やめる、老害防止のために」と宣言し、本当にやめました。般若心経のエスペラント訳本を初出版した方なので、周囲が驚き慰留しましたが振り切って。その人は以後十数年、中小企業相談員を勤め、亡くなりました。

時は移り今は、企業定年も60歳→65歳→…75歳と延長の趨勢にあり、役員になると5～10年上乘せ、が相場です。一方、文化事業やボランティア界など、市場競争から少し離れた世界では定年はなく、本人の意志次第です。現状では企業定年を世間の相場として参考にしていくかと思えます。

<高齢者の仕分け>

子供は年齢で仕分けするのは動物の発達から合理的基礎があります。だが老人は？ 同一年齢でも千差万別で個性的です。法律的に仕分けが必要な場合、

一応前期高齢者(65歳～)、後期高齢者(75歳～∞)と区切って、介護保険や医療保険の支払・給付の目安にしています。

だが「後期高齢者」期間は長過ぎる。そして今後、平均寿命が延びるにつれて社会は「元気な後期高齢者」だらけになること必至、です。(前期/後期高齢者人口比率は、2025年で12.5%/17.5%;2035年で13%/20%と推計される)

私案では、長寿者(国民平均寿命85歳～)枠を設定したい。ちなみに、「長寿者」(＝平均寿命越え者)が多数派になる時代は原理上、ありません。

<「年齢」よりも「要介護」を基準に>

人材活用の立場からすると、年齢で仕分けは、適切でない。さりとて、「本人の意志」「周囲の風評」など主観的な評価に頼る現在のやり方は、当事者を追い詰めるので好ましくない。

幸い、年齢に関わらず自立可能かどうかを表す指標には、「要介護認定」があります。高齢者役員の人材活用性を、年齢でなく自立性尺度で仕分けしたら？ 要介護1、要介護2(＝自立歩行困難)などを目安にすれば、今よりも納得の行く「役員免役」システムになるのではないのでしょうか。

要介護認定は医者や自治体の委員が判定しますので主観的主張の余地が少ないです。要介護率は、前期→後期→長寿者の順序に増大し多分、長寿者の段階で激増するが年齢と比例するわけではない。ただ、今はまだ、認知症で自立不能になる判定が難しく、未完成な点がありますが、もっとも頼れる指標です。高齢者役員の人材活用性を、年齢でなく自立性尺度で仕分けしたら？ 要介護1、要介護2(＝自立歩行困難)などを目安にすれば、今よりも納得の行く「役員免役」システムになるのではないのでしょうか。



大江山
いく野の道の
遠ければ
まだふみも見ず
天の橋立

(60 小式部内侍 999-1025)

小倉百人一首 Cent Versis Utaon



tradukis SIMATANI Takesi

De l' Patrino mi
per Ooe dividate
ne vizitis ŝin.
Nek legis nek vidis mi
Amanohaŝidate

(Koŝikibu-no-naiŝi)

54 La Flosponto en la Songô – Yume no Uki-Fasi – (1)

源氏物語第 54 帖 夢浮橋 ゆめのうきはし (1)

eljapanigis belmonto

* *Kavoru* estas 28-jara *

1. *Kavoru vizitas Jokava*

1

Veninte al la montotemplo *Fiei*, *Kavoru* lasis recitadi la sutrojn kaj adorkliniĝis antaŭ la budhostatuo kiel kutime. Sekvantan tagon li venis al *Jokava*. La tiea *soŭduo** surpriziĝis kaj fervore regalis lin.

Dum jaroj *Kavoru* petis de li budhoservadon kaj konis lin, sed ankoraŭ ne estis intima. Ĉi-foje la pastro servis por la malsano de la unuaranga Princo, kaj lia servado montriĝis tre efika. Vidinte tion, *Kavoru* estimis lin tre alte kaj ilia amikeco profundiĝis. Tial la bonzo gajege akceptis lin la gravan altrangulon, venintan kun iu intenco. La nobelo interŝanĝis multajn rakontojn en libera koro, kaj oni servis al li vaporan sekigitan rizaron en varma akvo.

Baldaŭ servistoj foriris kaj restis du solaj en kvieto.

Kavoru demandis:

“Ĉu via domo lokiĝas ĉirkaŭ *Vono*?”

La *soŭduo* respondis:

“Vi pravas. Tre mizera loĝejo. Mi havas tre maljunan patrinon la monaĥinon, kiu ne havas modestan domon en la Urbo. Dume mi hardas min en severa trejnado en la profunda monto, do mi metis ŝin tie, por konsolviziti ŝin intertempe nokte aŭ krepuske.”

Kavoru diris:

“En tiu vilaĝo homoj loĝis multe antaŭ lastaj jaroj, sed nun ŝajnas tre malmulte.”

Li proksimiĝis al la pastro, kaj parolis en mallaŭta voĉo:

“Mi timas, ke ĉi tiu parolo ŝajnos senbaza, kaj okazigos al vi suspekton pri la detaloj, se mi pridemandos - tial mi hezitas. Mi aŭdis, ke
2023.07

山におはして、例(れい)せさせたまふやうに、経
仏など供養せさせたまふ。またの日は、横川(よかは)
におはしたれば、僧都驚きかしまりきこえた
まふ。年ごろ、御祈禱(いのり)などつけ語らひたま
ひけれど、いと親しきことはなかりけるを、このた
び一品(いっぽん)の宮の御心地のほどにさぶらひた
まへるに、すぐれたまへる験(げん)ものしたまひ
けりと見たまひてより、こよなう尊びたまひて、い
ますこし深き契り加へたまひてければ、重(おも)々
しうおはする殿のかくわざとおはしましたること
と、もて騒ぎきこえたまふ。御物語などこまやかに
しておはすれば、御湯漬(ゆづけ)などまゐりたまふ。

すこし人々しづまりぬるに、

「小野(をの)のわたりに知りたまへる宿(やどり)
やはべる」

と問ひたまへば、

「しかはべる。いと異様(ことやう)なる所になむ。
なにがしが母なる朽尼(くちあま)のはべるを、京に
はかばかしからぬ、住み処(か)もはべらぬうちに、
かくて籠りはべる間は、夜半(よなか)暁にもあひと
ぶらはむ、と思ひたまへおきてはべる」

など申したまふ。

「そのわたりには、ただ近きころほひまで、人多
う住みはべりけるを、今は、いとかすかにこそなり
ゆくめれ」

などのたまひて、いますこし近くお寄りて、忍び
やかに、

「いと浮きたる心地もしはべる、また、尋ねきこ
えむにつけては、いかなりけることにかと心えず思
されぬべきに、かたがた憚られはべれど、かの山里

en tiu montovilaĝo kaŝite loĝas la virino, kiun mi devas prizorgi. Se tio estos vera, mi volis sciigi la cirkonstancon al vi post la konfirmo. Dume ŝi fariĝis via disĉiplino, kaj ricevis la instruojn de la evitindaj aferoj. Ĉu ekzistas tiu fakto? Ŝi estas ankoraŭ juna kaj havas gepatrojn, do iuj akuzas min, ke mi forpelis ŝin morta el la mondo.”

2. la soŭduo rakontas pri Flosboato

La soŭduo pensis:

‘Ho, tiel estis! Verdire ŝi ne aspektis virino ordinara. Ĉar la *Dajŝaŭo Kavoru* traktas ŝin tre grave, ŝi estos la amatino ne en frivola amo.’

Li estis deprimita kaj pentis ŝian ali-figurigon sen konsidero, spite al la altranga pastro. Li perpleksiĝis kiel respondi.

‘Li ŝajnas certe havi informon de iu informanto. Bone sciante pri la afero, li intence demandas min. Mi ne kaŝu plu pri ŝi. Plua kaŝado portos al mi maloportunon.’

Post tiu meditado li ekparolis:

“Do pri kio temas? Ĉu vi parolas pri la virino, kiun mi suspektas dum monatoj?”

“Iom antaŭe la monaĥinoj tie loĝantaj vizitis la templon *Fatuse* por la budhopeto, kaj sur la revena vojo loĝis en la tiel nomata *Udivin*. Tie subite malsaniĝis mia patrino la monaĥino pro la troa laceco. Mi malsuprenvenis de la monto ĉe la sciigo de la sendito. Sed jen, mi vidis ion strangan.”

Li daŭrigis en la malalta tono:

“Mi trovis ilin zorgantaj iun virinon, preterlasante sian preskaŭmortan patrinon. Ankaŭ la virino ŝajnis preskaŭmorta, sed tamen tenis spiron ĉe la gorĝo; do mi venigis talentulojn el la disĉiploj, kiuj havas kuracan efikon, kaj lasis ilin petpreĝi unu post aliaj, rememorante la antikvan rakonton, ke reviviĝis la mortinto el la ĉerko en la funebra ĉambro.

に、知るべき人の隠るへてはべるやうに聞きはべりしを。たしかにてこそは、いかなるさまにてなども漏らしきこえめ、など思ひたまふるほどに、御弟子(でし)になりて、忌むことなど授けたまひてけり、と聞きはべるは、まことか。まだ年も若く、親などもありし人なれば、ここに失ひたるやうに、かごとかくる人なんはべるを」

などのたまふ。

2

僧都、

「さればよ。ただ人と見えざりし人のさまぞかし。かくまでのたまふは、軽々(かるがる)しくは思されざりける人にこそあめれ」

と思ふに、法師といひながら、心もなく、たちまちにかたちをやつしてけること、と胸つぶれて、答(いら)へきこえむやう思ひまはさる。

「たしかに聞きたまへるにこそあめれ。かばかり心えたまひてうかがひ尋ねたまはむに、隠れあるべきことにもあらず、なかなかあらがひ隠さむにあいなるべし」

などとばかり思ひえて、

「いかなることにかはべりけむ。この月ごろ、うちうちにあやしみ思うたまふる人の御ことにや」

とて、

「かしこにはべる尼どもの、初瀬(はつせ)に願(ぐわん)はべりて詣(まう)でて帰りける道に、宇治院といふ所にとどまりてはべりけるに、母の尼の労氣(らうげ)にはかにおこりていたくなむわづらふ、と告げに、人の参(ま)うで来たりしかば、まかりむかひたりしに、まづあやしきことなむ」

とささめきて、

「親の死にかへるをばさしおきてもてあつかひ嘆きてなむはべりし。この人も、亡くなりたまへるさまながら、さすがに息(いき)は通ひておはしければ、昔物語に、魂殿(たまどの)に置きたりけむ人のたとひを思ひ出でて、さやうなることにやとめづらしがりはべりて、弟子(でし)ばらの中に験(げん)ある者どもを呼び寄せつつ、かはりがはりに加持せさせなどなむしはべりける。

*la duaranga pastro de la budhisma hierarkio.

Ĉina esperantisto vizitis Japanion (1)

TAKEMORI Hirotosi (Nara)

2023年4月30日に中国人エスペ란ティストとそのご家族が長谷川テル訪問記念の碑の除幕式に訪れようとしたが……「

Ĉio komenciĝis

La 13-an de marto Nara Esperanto-Societo (NES) ricevis peton pri Esperanta traduko de la invitletero de “la Societo en Nara Honori por la kamarado Hasegaŭa Teru” (ĉi-poste mi mallongigas kiel “la Societo Honori”), kiu fondiĝis en la jaro 2017, kaj celis konstruadon de la monumento memore al la vizito de Hasegaŭa Teru dum ses jaroj. Kaj finfine la monumento estis finkonstruita. La invitletero anoncis ke la malferma ceremonio de la monumento okazos en la templo Hannjaĵi la 30-an de aprilo. NES tradukis la invitleteron en Esperanton kaj disvastigis ĝin per ERAJ (Esperantaj Ret-Amantoj Japanaj) la 24-an de marto.

Retmesaĝo la 15-an de aprilo

Unu retmesaĝo atingis la sekretarion de la Societo Honori, kiu petis al mi traduki ĝin en la japanan. Jen Esperanta mesaĝo: “Mi nomiĝas Zhao Dezhi, loĝas en urbo Chongqing (重慶). ...Jes, mi ege volas partopreni la malferman ceremonion pri la Hasegaŭa Teru monumento en la 30-an de aprilo en Nara. Verda Majo ŝi vivis en urbo Chongqing, ŝi loĝis la domo “Teyuan” estas najbara mia domo ...antaŭe mi ofte vizitis ŝian la malnovan domon. ...Se la tempo estus sufiĉa, jes mi povas partopreni al Japanujo. Mi kaj miaj familianoj ege amas pacon, ili ege subtenas Esperantan movadon.”

Afero rapide ŝanĝiĝis

Post interŝanĝo de kelkaj retmesaĝoj, la vizito de s-ro Zhao al Japanio fariĝis realaĵo. Ĉi-foje akiri la vizon estis multe pli rapide ol ni japanoj pensis. Eble s-ro Zhao ne sciis

2023.07

multon pri la geografio de Japanio aŭ la vizo estis akirita tro haste. La plano estis ŝanĝita de kio estis origine elpensita, kaj ĝi estas planita alveni al Narita Haveno la 30-an de aprilo! Li malfruiĝis al la malferma ceremonio. Tamen li ne rezignis. Li volis resti en Japanio de la 30-a de aprilo ĝis la 3-a de majo kun sia edzino kaj sia aĝa fratino. Li volas resti en malmultekostaj loĝejoj kiel plej eble. Kaj li volas interrilati kun multaj Esperantistoj. Li povis veni al Japanio kun granda helpo de la membroj de la Societo Honori, vojaĝagento konata de la Societo Honori, kaj multaj esperantistoj.

Alveno al Nara

En la hotelo Ligare Kasugano okazis la tutlanda kunveno kaj la interkona kunveno post la malferma ceremonio, kaj atendis s-ron Zhao Dezhi esperantistoj kaj membroj en la Societo Honori. Post la 20-a horo alvenis li kaj liaj familianoj. Ĉiuj salutis interŝanĝis donacojn kaj kune fotis.



Zhao Dezhi estas kun flago centre, lia edzino estas tria de dekstre kaj lia aĝa fratino estas dua de dekstre en la unua vico.

Vizito al la templo Hannjaĵi

La sekvan tagon, la 1-an de majo, entute 7 homoj, el kiuj 3 estis familio de s-ro Zhao kaj 4 japanoj, vizitis Nara. Unue ni vizitis la templon Hannjaĵi, kie hieraŭ okazis la malferma ceremonio kaj vizitis la monumenton, s-ro Zhao prezentis unu floron, kiu estis preta por la malferma ceremonio. (daŭrigota)

献花する Zhao さん→



Foto: Takemori

2022年度 KLEG 活動報告

1. 各種行事

1.1 第70回関西エスペラント大会

大阪エスペラント会が地元実行委員会となって、6月18-19日、大阪市立中央会館で開催された。参加者は不在参加を入れて159人であった。

公開番組として、講演「長谷川テルをとおして平和を考える」と「野田淳子・中西史子ジョイントコンサート」が行われた。「長谷川テルをとおして平和を考える」は中国近現代史を専門とする西田千津氏により、長谷川テルのことをもっとよく知ってほしいとの動機に基づき、その研究の内容が語られた。シンガーソングライター野田淳子氏はこの大会を機会にCD「Junko kantas Esperante」をリリース。そこに含まれる歌などを歌唱。中西史子氏は日本人唯一のヤトガ（モンゴル琴）奏者としてプロ活動中。野田淳子氏の歌唱の伴奏も含み、モンゴルの曲が演奏された。

1.2 ワン・ワールド・フェスティバル

2月4・5日に第30回目として会場とオンラインで行われた。KLEGも「北区民センター」会場にブース出展した。

1.3 第3回エスペラント冬期学校

3月25・26日に「神戸市しあわせの村」で開催した。16名が参加した。希望者12名で宴会を行った。

2. アジアとの連携

今年はコロナ禍の下、関西大会にアジア青年を招待することもなく特筆すべき行事はなかった。

3. その他の KLEG の活動

第109回日本エスペラント大会は9月23-25日に、八王子市で主会場とオンラインと併用で開催された。登録参加者397人。オンラインを含み実参加者285人。KLEG会員も多数参加した。

4. 加盟 Rond (地方会) の活動

コロナ禍の影響を受けたが、入門講習会は5 Rond が1日講習などさまざまな形でのべ6回開催(受講者15人)し、エスペラントを広報する各種の展示会は、6 Rond がそれぞれに地元の市民文化祭などに参加してのべ9回開催した。ザメンホフ祭は近隣 Rond による共同開催で、4か所、オンライン参加を含め、のべ81人が参加した。

池田: “La Pordego” (夏目漱石の『門』) 輪読。

La Movado 869

年4回俳句の会を開催。関西大会とザメンホフ祭で新作狂言「九十九夜(つくもよ)」を上演した。

茨木: コロナ禍とアクティブな会員の超高齢化で、個人がオンラインによる海外との交流、日本大会、関西大会、Z祭その他行事に参加する。

宇治城陽: 総会開催などコロナ以前に戻りつつある。親睦遠足「ウトロ平和祈念館訪問」実施。「チンチン電車の詩」の翻訳作業を開始。

近江: 会員の西尾務さんが自転車事故で入院後亡くなった。コロナ禍の中、Skypeで例会を継続。会誌 Ondeta Siga は計画通り4回発行できた。

大阪: 第70回関西エスペラント大会を開催した。HPを見て学習希望者が現れ、実力があつたので、入門講習は行わず、輪読会に加わった。

京都: Al Vi Kara 107号を8月に発行。3年ぶりに11月の観芸祭で展示とステージ。FM番組「エスペラントって何?」は2023年3月で累計169回。

神戸: 加古川市内で開催したはりまエスペラント会との合同ザメンホフ祭では朗読劇を演じた。会誌へのエスペラント習作文の投稿が続いている。

堺: 入門講習会、展示会共に実施できず。一名の例会参加者が不定期にあり(未入会)、今後に期待。機関誌発行2回。

吹田: ふれあい講演会「学びの共同体～ともに創るオルタナティブスクール(コクレオ)とは～」開催。子供の自立的な学びを支援する学校の姿を知る。

高槻: コロナ禍で、懇親会等を自粛、ザメンホフ祭は北摂地区に仲間入り。高槻・常州両市エス会の関係は、「民をして官を促す」と自負。

豊中: ウクライナ難民「言語の壁」打破へ、展示と会話帳作成で。高齢化の壁打破へ、各種提案。会誌 Lampiro 「欠号なしの600号記念」特集を出した。

富田林: コロナ禍で規模が縮小された公民館まつりではあったが、欲張らず、見る人にすっと入るような展示を心掛けた。

長浜: エスペラントの歌で仲間作りを目指している。歌詞の単語、文節の意味等を確認合っている。

奈良: 月1回の定期学習会継続。ザメンホフ祭で万葉集の朗読を行った。奈良・長谷川テル顕彰会からの総会の宣言等のエスペラント訳依頼があり対応。

はりま：姫路学習会、スカイプ例会継続。KEK71 開催準備。姫路市の春の国際交流フェスティバルで展示、講習会。講習会参加者の1人が新規入会。

枚方：例会や会恒例行事は、ひきつづき見合わせ。オンライン・ハイブリッド行事に会員ごとに活動継続（日本大会、Zamenhof 祭、VK など）。

5. 各部署の活動

<組織部>

部長：竹森浩俊（奈良）。部員：木元靖浩（神戸）、福田誠（個人）、佐々泰弘（大阪）、田熊健二（大阪）。活動年鑑 Jarlibro de KLEG 2022 を発行した。第70 回関西大会の実行委員会の一員として働き、実施に協力した。

第71 回関西大会ははりまエスペラント会が地元実行委員会（LKK）を引き受けてもらい、2023 年6 月3 日～4 日にイーグレひめじで開催することになった。ワン・ワールド・フェスティバルに現地参加した。関西大会の開催方法を検討することを検討課題に挙げていたが進捗なし。外部団体であるが、長谷川テル顕彰の会とは折に触れ連絡を取り合い協力した。

<図書部>

部長：染川隆俊（個人）。

① 出版実績

ジャン・ジョニオー『デルヴォーの知覚』を日本語とエスペラントとの対訳で刊行した。A5 判、23 ページ。部数 150。販売価格 500 円。印刷インダ印刷。

② 図書販売

・行事（大会・ザメンホフ祭）での販売を事務局の全面的な協力を得て行った。

・LM 誌に毎号、図書広告を掲載した。

③ 2023 年度版図書目録を刊行した（2023 年3 月。24 ページ。420 部）。

<編集部>

部長：相川節子（宇治城陽）。部員：島谷剛（池田）、宮本義人（個人）。校正協力者：大畑賀代子（吹田）、北川昭二（個人）、田平正子（京都）、的場勝英（豊中）、各理事・監事。

La Movado 854 号から 865 号までを発行した。7、8 月も含めて毎月発行を維持している。

編集部員 4 人・校正協力者 4 人のほか、理事会のメンバーも企画・記事依頼・校正等に加わった。ま 2023.07

た 2022 年 2 月より、リモートによる編集会議を毎月 20 日前後に行っている。

<教育部>

部長：福田誠（個人）。部員：田中一喜（池田）、塚本猛（はりま）、松田洋子（吹田）。

<国際部>

休部中

<事務局>

局長：中道民広（神戸）。局員：大西真一（近江、12 月まで）、大畑賀代子（吹田）、田熊健二（大阪）、東藤薫久（高槻）、宮本義人（2 月から、個人）。6 人活動。

・当直者を中心とする局員の継続した努力によって、事務所の維持業務と連盟及びモバード社の日常の仕事を遂行した。

・関西大会、各地のザメンホフ祭での図書販売や棚卸しでは会員有志の支援を受けた。

・会員や読者でない人に La Movado 見本や図書目録を送るなど、新規読者勧誘活動を継続的にやっている。

・今年度は、Novaj Libroj（メール版）を発信できなかった。

・第70 回大会開催ロンド（大阪）及び第71 回開催ロンド（はりま）の要望により、関西大会の受付業務を行った。

・ホームページの維持には島谷剛さん（池田）の支援を受け、またフェイスブックの管理には福田誠さん（個人）の支援を受けて行った。

6. KLEG 賞・KLEG 奨学金（2022 年度活動）

KLEG 賞は大西真一さんに授与される。事務局員として 10 年の長きにわたり KLEG の活動に貢献したことが評価されたもの。表計算ソフトのマクロを用いた事務の改善も貢献に数えられる。

KLEG 奨学金は染川隆俊さんに授与される。図書部部長として、出版に相応しい図書の発掘や、書き手に対して折衝・調整を行い出版に尽力したことが評価されたもの。

7. 組織状況

加盟団体数に変更はなく、次の 17 ロンド。池田、茨木、宇治城陽、近江、大阪、京都、神戸、堺、吹田、高槻、豊中、富田林、長浜、奈良、はりま、枚方、和歌山（緑丘会）。2023 年 3 月末現在の団体会員は 174 人（前年 183 人）、個人会員は 47 人（同 49 人）。

2023 年度 KLEG 活動方針

1. コロナ禍の以前に戻り、自由に積極的に活動を進めていく

コロナ禍の下、学んだ IT 技術も踏まえ、自由な発想で積極的に活動を進めていく。

2. ロンド活動を工夫して活性化し、会員の増加を

市民文化祭などには出展・出演する。公衆に対してエスペラントの存在を見えるようにし、エスペラントに取り組むきっかけを提供する。会員に対してはその準備作業を通じて活性化と定着を図る。

3. 教育の推進と会員の能力向上

ロンドでも学習方法・手段を創意工夫し、能力の向上を図る。

4. 世界のエスペランチストとの交流

世界のエスペランチストとの交流に力を注いでいく。

5. 青年エスペランチストに対する支援

青年奨学金や会費の半額割引など、青年に対する支援を行っている。これらを活用して、青年会員増加を図る。

6. 活動事務能力の継承

組織的な活動には種々の事務仕事やマネジメント能力が必要である。KLEG の活動維持のため、共同作業・情報共有・文書化等に努め、事務能力の継承を図る。

7. 主な事業計画

- (1) 第 71 回関西エスペラント大会（姫路）開催
- (2) 図書の刊行、販売
- (3) ワン・ワールド・フェスティバル出展
- (4) 機関紙 La Movado の定期発行
- (5) 加盟エスペラント会における例会、講習会、展示会、会誌発行、等の行事開催、冊子の発行

2023 年度の KLEG 役員（留任）

理事・監事

会長：木元靖浩、副会長：相川節子、専務理事：中道民広、理事：島谷剛、染川隆俊、福田誠、竹森浩俊、監事：山本徹、田中一喜

部局長

事務局長：中道民広、組織部長：竹森浩俊、図書部長：染川隆俊、編集部長：相川節子、教育部長：福田誠

顧問

赤田義久、岸田準二、田熊健二

広島エスペラント会近況

初級講習会第 38 回：4 月 22 日（土）参加 2 人。教科書 Leciono 4 の最後まで。

初級講習会第 39 回：4 月 29 日（土）参加 2 人。教科書 21 頁 10 行目まで。

初級講習会第 40 回：5 月 6 日（土）参加 2 人。

中級勉強会：4 月 28 日（金）ズームで 6 人出席。

中級勉強会：5 月 5 日（金）ズームで 5 人出席。

4 月 16 日（日）日曜日例会。5 人が参加、1 人が作文で参加した。「博物館、美術館」について話した。『オニアの旅行、ヨーロッパ』は p.47 から p.52 まで読み、オニアはパリでマカロンを楽しんだ。

4 月 23 日（日）ズームで日曜日例会。3 人参加、2 人が作文で参加した。「驚異的に美味しかったお菓子」をテーマに楽しく話した。

5 月 7 日（日）日曜日合同学習例会。8 人参加、1 人が作文で参加。14 日は 4 人参加、1 人作文参加。

4 月 30 日（日）は中四国エスペラント連盟のオンライン研修会で、杉林さんが講演。[←野原エミ]

香川エスペラント会、“Meiko”を

次のテキストについて、木下順二の「夕鶴 *vespera gruo*」を終えたあとは、野原エミさんの“Meiko”を読むことに。YouTube の野原エミさんの絵と語りによる「紙芝居動画」。彼女のお母さんメイコさんの数奇な被ばく体験に感動：<https://youtu.be/fgtv2WsORNg> [←メール会報より]

5 月の土曜エスペラント会

5 月もオンラインで 13 日に開催された。出席 14 人（内、海外から 4 人）。最初、様々なテーマで雑談した。リンス博士とは『危険な言語』初版 50 周年について、バルバーラとはポーランド放送と日本のリスナーについて話した。また、皆でエスペラント相撲について体験を語りあった。自己紹介の後、用意されたプレゼンを聞き、話し合った。テーマは「バリ島料理」、「ファラオ」、「ハイドンとモーツァルト」、「訪れたい都市ポズナン」、「私の確氷峠越え」等。あつという間にエスペラント漬けの 2 時間半が過ぎた。

土曜エスペラント会は、原則毎月第 2 土曜日に開催。 [←山川 修一]

Songoj dum Dek Noktoj (7)

NATUME Sôseki, trad. OKI Keimei

La kvara nokto

En la mezo de vasta terplanko¹⁾ tablo simila al vasta kvarangula benko por ĝui malvarmetecon²⁾ estis metita kaj kelkaj faldeblaj seĝoj sen apogilo estis metitaj ĉirkaŭ ĝi. Ĝi nigre brilis. Ĉe ĝia angulo, kvadrata manĝotableto estis metita antaŭ maljunulo kaj li sola trinkis sakeon. Manĝaĵo ŝajnis esti kunstufitaj radiklegomoj ktp.

Lia vizaĝo tre ruĝiĝis pro trinko de sakeo. Krome, lia vizaĝhaŭto estis glacea kaj sur ĝi ne troviĝis tio, kion oni povis nomi falto. Sed mi povis scii ke li estas maljunulo, ĉar sur lia vizaĝo kreskis ĉiom da blankaj vangharoj. Malgraŭ ke mi estis knabo, mi cerbumis, kiom da jaroj li havas. Ĝuste tiam, dommastrino, portanta akvon en sitelo versitan de akvotubo malantaŭ sia domo, viŝante siajn manojn per sia antaŭtuko demandis:

“Kiom vi aĝas?”

Li glutis buŝplenon da manĝaĵo stufita.

“Mi forgesis, kiom da jaroj mi havas,” li diris, ŝajnigante sin indiferenta. Kun la viŝitaj manoj enŝovitaj inter stretan obion volvitan ĉe sia talio, ŝi staris ĉe lia flanko, rigardante lian vizaĝon. Li unuspire trinkis sakeon per la ujo granda kiel bovlo por manĝi rizon, kaj eligis spiron inter la lipharoj kaj la barbo. Tiam ŝi demandis:

“Kie estas via domo?”

Li interrompis la longan elspiradon kaj diris:

“En la interno de umbiliko.”

Ŝi lasis la manojn interŝovitajn inter sia streta obio, plu demandis:

“Kien vi iros?”

Do, li refoje unuspire trinkis varman sakeon, eligis spiron same kiel antaŭe kaj diris:

“Tien mi iros.”

“Ĉu rekte?” kiam ŝi demandis lin, lia eligita

2023.07

夢十夜 (7)

夏目 漱石

第四夜

広い土間の真中に涼み台のようなものを据(す)えて、その周囲(まわり)に小さい床几(しょうぎ)が並べてある。台は黒光りに光っている。片隅(かたすみ)には四角な膳(ぜん)を前に置いて爺(じい)さんが一人で酒を飲んでいる。肴(さかな)は煮しめらしい。

爺さんは酒の加減でなかなか赤くなっている。その上顔中つやつやして皺(しわ)と云うほどのものはどこにも見当たらない。ただ白い髭(ひげ)をありたいけ生(は)やしているから年寄(としより)と云う事だけはわかる。自分は子供ながら、この爺さんの年はいくつなんだろうと思った。ところへ裏の笥(かけひ)から手桶(ておけ)に水を汲(く)んで来た神(かみ)さんが、前垂(まえだれ)で手を拭(ふ)きながら、

「御爺さんはいくつかね」と聞いた。爺さんは頬張(ほおば)った煮メ(にしめ)を呑(の)み込んで、

「いくつか忘れたよ」と澄ましていた。神さんは拭いた手を、細い帯の間に狭(はさ)んで横から爺さんの顔を見て立っていた。爺さんは茶碗(ちawan)のような大きなもので酒をぐいと飲んで、そうして、ふうと長い息を白い髭の間から吹き出した。すると神さんが、

「御爺さんの家(うち)はどこかね」と聞いた。爺さんは長い息を途中で切って、

「臍(へそ)の奥だよ」と云った。神さんは手を細い帯の間に突込(つっこ)んだまま、

「どこへ行くかね」とまた聞いた。すると爺さんが、また茶碗のような大きなもので熱い酒をぐいと飲んで前のような息をふうと吹いて、

「あっちへ行くよ」と云った。

「真直(まっすぐ)かい」と神さんが聞いた時、ふう

spiro rekte flugis ĝis strando de rivero post paso de la glitpordo “ŝoĵio³⁾” kaj paso sub foliario de saliko.

Li iris eksteren. Ankaŭ mi eliris el la domo post li. Malgranda botelo farita de lagenario pendis de lia talio. De sia ŝultro ĝis sub la akselo, li per ŝnuro pendigis kvadratan skatolon. Li surmetis verdeca-helindigobluajn malvastan pantalonon kaj veston sen manikoj. Nur liaj piedvestoj, tabioj⁴⁾, estis flavaj. Ili ial aspektis kiel tabioj faritaj de ledoj.

Li rekte venis sub salikon. Estis tri-kvar infanoj sub la arbo. Ridante li tiris verdeca-helindigobluan viŝtukon de sia talio. Li tordis la tukon maldike kaj longe kiel ŝnuron, kaj metis ĝin sur la mezon de tiea tersurfaco. Post tio, li desegnis grandan cirklon ĉirkaŭ la viŝtuko. Kaj fine li elprenis latunan fluton, kiun uzas bombono-vendisto, el la skatolo pendanta de la ŝultro.

“Baldaŭ la viŝtuko fariĝos serpento. Rigardu! Rigardu!” Li ripetis.

(daŭrigota)

Rimarkoj (La kvara nokto):

- 1) terplanko: Oni utiligis teron kiel plankon en iama japana domo kiel konstrustilo japana. Kiam oni faras terplankon, oni kovras la teron per ruĝa tero kaj ŝtonetoj, miksinde kalcian hidrokسيدon, kaj batante solidigas la tersurfakon. Oni ankaŭ uzis aliajn materialojn por kovri la teron laŭ tempoflue. Tia terplanko estas farita en vestiblo kaj kuirejo ĉe malantaŭa enirejo. La alteco de la terplanko estas same kiel ekstera tero por facile eniri en la domon kaj eliri el la domo. Oni ĝenerale faris tian terplankon antaŭe, sed nun preskaŭ ne troviĝas en Japanio.
- 2) benko por ĝui malvarmetecon: Ĝi ĝenerale ne havas apogilon, estas vasta ol ordinara benko kaj estas farita de lignoj aŭ bambuoj, sed troviĝas diversaj specoj. Oni metas ĝin eksterdome por ĝui malvarmetecon en somero. En ĉi tiu rakonto la mastrino ŝajne uzis ĝin kiel tablo.
- 3) ŝoĵio: Ĝenerale konsistas el du aŭ kvar ekranpordoj kun krado, unu flanko estis kovrita de maldika papero, por ke preterpasantoj ne povu enrigardi la ĉambron, sed sufiĉe da lumo povu trapasi ilin tiel, ke la ĉambro estu hela.
- 4) tabioj: Japanaj piedvestoj, faritaj de kotona tuko kiel ŝtrumpetoj kaj kovrantaj piedojn ĝis maleolo. Ankaŭ troviĝas tabioj kun kaŭĉukaj plandumoj por ke oni povu paŝi nur per ĝi sur la tero.

と吹いた息が、障子(しょうじ)を通り越して柳の下を抜けて、河原(かわら)の方へ真直(まっすぐ)に行った。

爺さんが表へ出た。自分も後(あと)から出た。爺さんの腰に小さい瓢箪(ひょうたん)がぶら下がっている。肩から四角な箱を腋(わき)の下へ釣るしている。浅黄(あさぎ)の股引(ももひき)を穿(は)いて、浅黄の袖無(そでなし)しを着ている。足袋(たび)だけが黄色い。何だか皮で作った足袋のように見えた。

爺さんが真直に柳の下まで来た。柳の下に子供が三四人いた。爺さんは笑いながら腰から浅黄の手拭(てぬぐい)を出した。それを肝心緬(かんじんより)のように細長く緬(よ)った。そうして地面(じびた)の真中に置いた。それから手拭の周囲(まわり)に、大きな丸い輪を描(か)いた。しまいに肩にかけた箱の中から真鍮(しんちゅう)で製(こし)らえた飴屋(あめや)の笛(ふえ)を出した。

「今にその手拭が蛇(へび)になるから、見ておろう。見ておろう」と繰返(くりかえ)して云った。

(続く)

Kurantaj Vortoj

オートバイ motorciklo; motorbiciklo
トライク (三輪オートバイ) motor-triciklo
電動アシスト自転車 elektrohelpita biciklo
ヘルメット kasko
努力義務 devo fari klopodojn

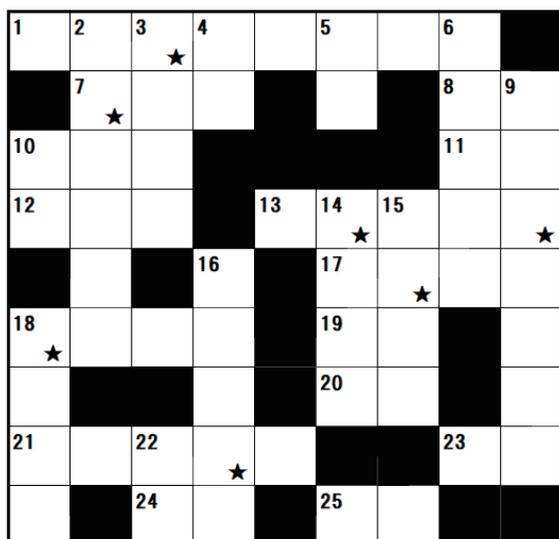
Vortkruca enigmo

TAKEMORI Hirotsi

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun stelo. Tiam vi akiros nomon de mola kaj dolĉa frukto.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de julio, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>

Rimarko: ĉiuj vortoj ne portas finaĵojn.



Horizontale: 1. Nia lingvo. 7. Filmo. 8. Sufikso montranta ĝenerale inklinon. 10. Ĉu vi volas iom da kafo ~ lakto? 11. ~patroj ŝatas, sed mi volas kafon sen lakto. 12. La Turo nomata "Ĉielarbo", 634m ~a. 13. Taksiisto = taksi~. 17. Elpremi la lakton el la mamoj de bruto. 18. Zebro havas malhelbrunajn aŭ nigrajn ~ojn. 19. Sufikso esprimanta kolekton de samspecaj ekzistaĵoj aŭ objektoj. 20. La pano ŝimas. Tio signifas, ke ni ne plu povas manĝi ~n. 21. Objekto, per kiu infanoj ludas. 23. Infano. 24. Prepozicio montranta fiksitajn proksimiĝon en iu direkto. 25. Antonimo de "eg".

Vertikale: 2. Li ~is Budhostatuon el ligno. 3. Akuta kaj pika ekstremo. 4. Rano ~ puto. 5. Membro de grupo. 6. La tertremo forigis

kelkajn ~ojn de la tegmento. 9. Tago de semajno. 10. Mallongigo de "kaj aliaj". 14. La komponado de ĉi tiu foto estis farita ~e al mia plej ŝatata animita filmo. 15. Post kiam la longaj ~oj finiĝas, mi sentas min enua. 16. Norda lando lanĉis ~on! Ne ~on, ĝi lanĉis raketon! 18. Tiu fiŝo revenas al sia hejma rivero. Lastatempe oni malofte povas manĝi ĝin pro ĝia multekosto. 22. Kiom ~esperantistoj mortis pasintjare?

La solvo al la maja enigmo: KUKOLO

La ĝustan solvon donis 13 legantoj:

CA,
Sayuri,
濱田 國貞、
島津 泰子、
松川 まきこ、
Grebo,
TADA,
平井 倭佐子、
本田 照美、
にしのりこ、
水渡 篤子、
武藤 たつこ、
Kacu



Korekto pri la junia enigmo

"Vicigu adekvate 7 literojn" estis indiko en la junia numero, sed "7" devis esti "8".

Pardonon!

楽しい作文教室 (143) 成績

12人の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね: Lumo, CA, yosie, Haveno(④ fromte), ikona.

良いね: Drako, Ivajo(① kastero), Celejo, Eiko(② glasplaktika?), 組曲, Jasuko, はるちゃん(① castelo ④ Vonvole など綴り)。

★10月21-22日の日本エスペラント大会公開番組講演者の一人で、児童文学作家こまつあやこ (JEI 会員、川崎エスペラント会会員) が5月13日付朝日新聞朝刊神奈川版で写真入りで紹介された。

[←北川 郁子]

★文化・イベント情報誌『サクラ』(2023.6、さいたま市文化振興事業団)で、人形劇団プーク代表の栗原弘昌が、劇団の名称「プーク」(PUK)の由来について、エスペラント語でLA PUPA KLUBOを正式名称とし、仲間内では、人形を意味するPUPAの“PU”と、クラブを意味するKLUBOの“K”をとってPUK(プーク)と略称でよんでいた。

[←後藤 齊]

★京浜急行の井土ヶ谷駅から徒歩7分の「エスペラント博物館よこはま」について、ヤフーブログなどで詳しい紹介記事：レアな博物館を住宅街で発見!! 「エスペラント博物館よこはま」(<https://creators.yahoo.co.jp/yukiyokohama/0100467960>)。また、https://43woman-happy-life.com/esperanto_museum/にも別の記事)。

[←北川 郁子]

★5月19日付「時事ドットコム」(<https://www.jiji.com/jc/article?k=2023051900710>)によると、ウクライナの首都キーウの市議会は5月18日、駅や通りに残る旧ソ連・ロシア風の名称を改めた。戦

前に日本で摘発されたソ連のスパイにちなむ、「リヒャルト・ゾルゲ通り」は廃止。代わりにウクライナ系の詩人から「ワシリ・エロシェンコ通り」と改名した。エロシェンコは大正時代に訪日し、多くの文化人と交流した視覚障害者のエスペランティスト(今月の図書広告に著書)。

[←後藤 齊]

★4月6日付『週刊モーニングNo17』掲載の『平和の国の島崎へ』25話(濱田轟天原作、瀬下猛漫画)に秘密組織での会話の場面。「あい変わらないずの悪い食です」と、主人公暗殺に失敗した戦闘作員が話しかけたときに、組織の指令者が「相変わらずエスペラントが下手だな。お前の地の言葉で話そう」と発言。

[←堀田 裕彦]

★米澤鐵志著「キンカンつるはげのテツ 米澤さんの被曝体験と核廃絶の叫び」(日本語・英語・エスペラント語合冊版)が出版された。エスペラントの部分の作成は森脇保と田平稔。

[←田平 正子]

★ツイッター「book cafe 火星の庭」に「全国の優生保護法裁判の原告、関わってこられた人たちにメッセージを募集したところ、56名から思いが詰まったメッセージが寄せられました。工藤さんの作品「Nia Loko (ニアロコ) (エスペラント語で「私たちの場所」)と多くのメッセージが一つになった旗。もうすぐ初お披露目です」と。

[←後藤 齊]

★茨木市立「川端康成文学館」で6月10日～7月17日(火曜休館)に企画展「川端康成とつながる」。宮本正男宛自筆書簡、小西岳エスペラント訳『雪国』が展示される。

[←宮本 義人]

★5月31日の“Libera Folio”投稿によると、UEAは“biblioteko Hodler”の主要部分をポーランド国立図書館(ワルシャワ)に移管した。なおUEAの歴史資料と図書館の一部はすでにオーストリア国立図書館(ウィーン)に寄贈されている。

楽しい作文教室 9月号課題 (7月20日締切)

- ① 反対派はデモをして開会させまいとした。
 - ② 隣の町や村からも大勢が反対派の応援にきた。
 - ③ 村長は危険を感じ警察に出動を要請した。
 - ④ 警官が300人も動員される程の事態になった。
- (ヒント) 反対派 opozicio、デモ manifestacio. interveni, mobilizi を調べましょう。

日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp
(件名に「作文」の文字を入れてください)

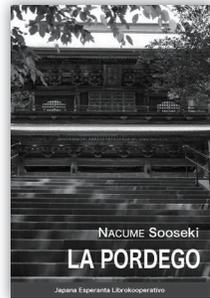
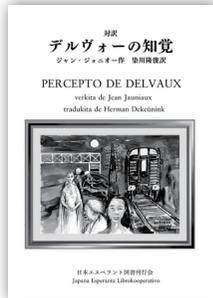
添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KLEG 事務局だより

★6月3日～4日姫路市で開催された第71回関西大会では、例年どおり大会

書店を開設しました。

★書店の設営・運営には、主に事務局員の大畑賀代子さん、田熊健二さん、東藤薫久さん、中道民広さんと図書部の染川隆俊さんがあたりました。また、相川節子さん(宇治城陽)と森下綱子さん(神戸)さんにもお手伝いいただきました。



★ 新刊・新着 ★

Studoj pri la Esperanta literaturo 1200円
Benczikによる文学論の新版(初版 La Kritikanto、1980年)。バギー、オールド、サドラーらを論じ、エスペラント文学を展望。第71回関西エスペラント大会記念品。日本エスペラント図書刊行会発行。A5判、172p.

デルヴォーの知覚 500円
ポール・デルヴォーはシュールレアリスムの画家。その絵画をテーマとするベルギーの作家ジャン・ジョニオーの短編をエス日対訳で。日本エスペラント図書刊行会発行。A5判、23p.

Amo, tuso kaj forpaso 1400円
コロナ禍で生きる人びとの姿を描く短編小説集。多文化小説コンクールの成果。間宮緑の Antaŭ la truo de kuniklo を収録。A5判、113p.

★ 日本エスペラント図書刊行会の本 ★
エロシエンコのシベリアものがたり 800円
高杉一郎が翻訳したエロシエンコのシベリア体験にもとづく4作品。うち「チェスの三手詰め問題」は訳者没後に原稿が発見され、初出となる。

Hoodjooki 400円
鴨長明『方丈記』(野原休一訳、初版はエスペラント研究社、1936年)。災厄がつづく時代を生きた長明の無常観・厭世観はいまに通じる。

La pordego 1200円
崖下の暗い家でひっそりと暮らす宗助と御米。犯した<罪>は二人をとらえて離さない。夏目漱石円熟期の小説『門』(土居智江子訳)。

Noveloj de Akutagawa Ryūnosuke 1000円
「蜘蛛の糸」「蜜柑」「早春」など対訳芥川集。

Kuru, Melos! 350円
太宰治「走れメロス」。原作テキスト付き。

Nokto de la Galaksia Fervojo 1000円
宮沢賢治「銀河鉄道の夜」「グスコブドリの伝記」「シグナルとシグナレス」など全5編。

エスペラント文法の散歩道 [改訂新版] 1000円
小西岳の文法論。「kajとsed」「laの用法」他。

Lingvo Stilo Formo 1000円
Kalocsayによるエスペラント論集の増補復刻版(原版は1970年ピラート社刊)。“Esperanta vortfarado” “La evoluo de nia poezia lingvo”など。

★ 再入荷 ★

Adoru 1700円

Eraro 800円

La infanoj en la arboj 1600円

Krimeo estas nia 2800円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ 6月号の p.9 「クイズで知ろう正しい情報」の記事中の「Rash Bihari Bose 1886-1944」の年代を「1886-1945」に訂正します。(相川節子)

編集部宛連絡・投稿は <lamovado@gmail.com> へ

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352
中国・四国支局：中国・四国エスペラント連盟内 763-0063 香川県丸亀市新浜町 2-4-18 小阪清行方 電話 (0877) 22-4771